

総務常任委員会 政務調査

先 東京 都 荒川区 視察 千葉 県 市 川市

H19
1.23 ~ 25

一月二十三日、真冬とは思えない快晴の中、こまち八号（角館発八時四十五分）で一路東京へ出発した。今回の政務調査の目的は、仙北市が十九年度から計画している都内のアンテナショップの候補地の一つである荒川区の商店街の視察と、PFI事業（平成十一年九月施工「民間資金等の活用による公共施設等の整備等の促進に関する法律」）の先進地である市川市の視察である。

荒川区「ふるさと物産館誘致事業」

一日目、予定より三十分ほど早く荒川区役所に到着したが、議会事務局に素早い対応をしていただいた。

鳥飼議長の歓迎の挨拶を受け、その後、高野産業部長、黒川課長から荒川区の現状、区の補助事業である「ふるさと物産館誘致事業」の説明をしていただいた。

質疑の中で西川太一郎区長が大変秋田に縁のある方で、お会いできる事になり、しばし秋田の話に盛り上がり、またその中で三嶋助役が秋田出身ということで、秋田弁で挨拶してくれた。二度ビック

りである。

荒川区は、人口十九万二千二百五十一人、八万八千九百九十九世帯（平成十八年十二月一日現在）四十語の商店街があり約二千人の会員が活動している。今回の補助事業の内容は、十九年度からは

◎店舗改装費―補助率三分の二、限度額二百万円

◎店舗家賃―補助率三分の二、限度額、月二十万円最長二年間

◎PR経費―補助率三分の二、限度額二十万円

という内容である。私達は二つの商店街を視察

した。

どちらもアーケードがあるわけでもなく、昔ながらの下町の商店街という感じで道幅は狭く人ごみの中、自転車は走るのが大変そうである。空店舗のほとんどが間口二間、奥行き二間ほどであった。十九年度からは、区ではなくそれぞれに商店街が空き店舗を自ら運営する事になっている。商店街に貢献できる店、パツティングしない商品造りなどの条件がある。現在、十八年八月一日にオープンした新



荒川区長と供に

潟県上越市の「みなもと農場」が一号店として開店している。定休日で詳しい話が聞けなかったのが残念であった。

二日目は千葉県市川市のPFI事業の研修である。

麹町のホテルを朝八時三十分に出発、満員電車で揺られ九時四十分には市庁舎到着、春日議会事務局長に市川市の概要を説明していただく。人口四十六万五千人、二十万八千世帯、江戸川を隔てて江戸川、葛飾区と相對している。南は浦安市と東京湾に面している。市の一般会計は千四百四十一億円、企業会計十七億円、特別会計八百六十一億円であった。

次に担当者よりPFI事業について説明を受けた。市川市のPFI事業の一番の特徴は、中学校校舎、給食室、公会堂、保育所、ケアハウス、デイサービスセンターを二つのPFI事業で一棟の合築した建物（五階）で整備したことである。一体的に整備したこととで事業費が大幅に縮減（VF M二十四％）できたこともPFI事業の大きな長所である。今後この事業についてさらに調査、研究する必要があると感じた。

二日目のサプライズ、総務

省大臣室で菅総務大臣（湯沢市出身）とお会いすることができたこと。そして夜には、地元の御法川代議士と懇談することができた。「やる気のある地方は応援する。何でも相談してほしい。」との力強い言葉を頂いた。お二人とも明日（一月二十五日）から国会が開会する忙しい中、本当にありがとうございました。

三日目はグループごとの視察をし、二泊三日の研修視察を無事終え、一月二十五日十八時仙北市到着、今日も快晴だった。



菅総務大臣を囲んで